

エコーでコラボ 主治医と検査者の相互理解を深める心エコー奥義

三神大世(監修)
湯田 聡, 山田 聡, 赤坂和美(編)

群馬県立心臓血管センター技術部

戸出浩之

心エコーを臨床で最大限に活かす

循環器疾患の診断と病態把握における心エコー検査の重要性は広く認識され、各施設での心エコー実施数は飛躍的に増加してきている。心エコー検査は、ベッドサイドにおいて主治医自身が聴診器代りに探触子を持ち、必要最小限の情報だけを得るという一つの側面がある。一方、超音波装置の高性能化と検査技術の進歩と相まって、より詳細で高精度な情報まで得られるようになり、多くの施設の大多数の検査がエコー室においてエコー専門医や技師の手により実施されるようになってきている。そのような状況では、心エコーを依頼する主治医と、それを受けて検査を実施する検査者の間で十分な意思疎通が必要で、それがなければ患者にとって万全な心エコー検査が実施できない可能性もある。そして、昨今の電子カルテ化やオーダリングの普及は、主治医の顔が見えない検査依頼と、検査者の声が聞こえない検査レポートという弊害を生んでいる背景がある。

そのような中、「エコーでコラボ」と題した本書が登場した。本書は、心エコー検査において患者の主治医と検査者の相互理解を深め、両者のコラボにより心エコーを臨床に最大限に活かすことを主眼に置いた今までにない心エコーの実践書である。

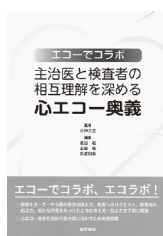
本書は、前半の総論において検査を依頼する主治医とそれに応える検査者の両者が知っておくべき基本的事項を述べている。ここでは、経胸壁および経食道心エコーの基本断面や基本計測に加え、心機能計測、弁疾患や短絡疾患などにおける定量計測の方法、注意点について述べている。

後半の各論においては、実際の心エコー検査の依頼を想定し、依頼目的覽に記されることが多い症状や身体所見の異常、基礎疾患、主な心疾患な

どに項目分けし、それぞれで主治医が検査依頼する際の疾患の捉え方、検査(者)へ求めるもの、検査者がそれにどう応えるべきかが簡潔に述べられ、さらには想定外の異常を見つけた際の考え方にまで踏み込んでいる。本書により、検査者は臨床のそれぞれの場面で心エコーに何が求められているか、どう応えるべきかを知ることができ、主治医は心エコーに何を求め、それをどう伝えるべきかを理解することができるであろう。

本書のもう一つの大きな特徴として、執筆者がすべて北海道の心エコー専門医と技師ということがある。かつて北畠顕先生(北大名誉教授)により北海道の地にまかれた心エコーの種を、本書の監修をされた三神大世先生が大切に育て、編集に携われた湯田聡先生、山田聡先生、赤坂和美先生らにより北海道全体で今大きく花を開かせている。つまり、本書は北海道の心エコーの集大成であるともいえる。明治当初に北海道の厳しい自然の中で開墾・開拓していくためには、人々の協力、コラボレーションなくしてはなし得なかったであろう。本書は、そのような北海道だからこそ生まれた主治医と検査者のコラボのための一冊である。

心エコー検査に携わる医師、技師はもちろん、依頼する多くの循環器医、他科の医師にもぜひ利用いただきたい一冊である。



●B5/頁 292/2014 年
定価: 本体 5,000 円 + 税
[ISBN978-4-260-01742-8]
医学書院 刊